

元気 産業と地域資源を活かした魅力あふれるまちづくり

(7) さまざまな人・地域との活気ある交流の促進

⑬特色ある地域間交流を推進する



現状と課題

- ◆文化、スポーツ活動を通じて、市民レベルでの地域間・都市間交流を充実させることが求められています。
- ◆姉妹都市※1との継続的な交流を推進するため、交流事業への参加者確保や持続可能な事業実施体制の整備が求められています。
- ◆市民の国際理解と国際感覚の醸成を図るため、海外姉妹都市とのさらなる交流の促進、赤穂市国際交流協会の事業の充実、体制強化が求められています。
- ◆人口減少・少子高齢化によるマンパワーや財源が単独の自治体では対応できない行政課題が増加しており、広域連携による対策が必要です。
- ◆広域的な行政課題や共通した地域課題に対応するため、西播磨市町長会や兵庫・岡山両県隣接市町村地域振興協議会などとの国・県要望や、備前市、上郡町との定住自立圏、姫路市を中心市とする8市8町での連携中枢都市圏※2の形成による共同事業の実施が必要です。

施策の方針

姉妹都市(茨城県笠間市・熊本県山鹿市・西オーストラリア州ロッキングハム市)および忠臣蔵にゆかりのある都市等との文化・スポーツを通じた交流など、特色ある交流活動を積極的に展開します。

赤穂市国際交流協会など国際交流団体との連携による交流を通じ、さまざまな国の文化や価値観を理解し、グローバル社会に対応した人材の育成や多文化共生に向けた環境整備を図ります。

市民の生活圏の拡大に加え、人口減少や災害など自治体の枠を超えて広域的に取り組むべき課題に対応するため、近隣自治体との連携・協力や機能分担など、地域特性を活かした広域連携を推進することで、市民が安心して快適な暮らしを営めるよう、地域経済と都市基盤の持続可能性を高めます。

※1 姉妹都市……文化交流や親善を目的として結びついた都市と都市。

※2 連携中枢都市圏……地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための都市圏を形成するもの。